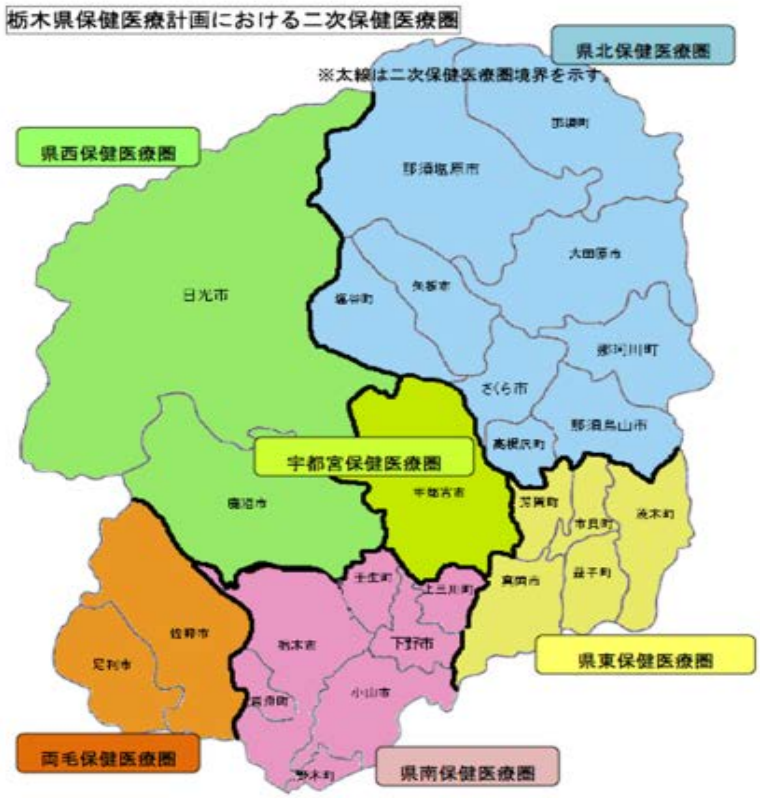
7-2　栃木県からの報告

自治医科大学てんかんセンター、脳神経外科　　中嶋　剛、川合謙介

１．背景

栃木県は 6 つの二次医療圏に分かれている。50 万人の二次医療圏が 2 つあり、全県で 200 万である。

栃木県はてんかん専門医は 2013 年～2016 年までは 9 名、2017 年は 8 名しかいない。栃木、群馬、茨木の北関東 3 県でも 14～16 名しかおらず、診療科も偏っている。栃木県では小児科が多い。



圏　名	人　口（人）
県　北保健医療圏	387,998
県　西保健医療圏	188,505
宇　都　宮保健医療圏	514,798
県　東保健医療圏	147,428
県　南保健医療圏	482,270
両　毛保健医療圏	272,387
計	1,993,386

２．栃木県のてんかん地域診療連携活動

1）経緯

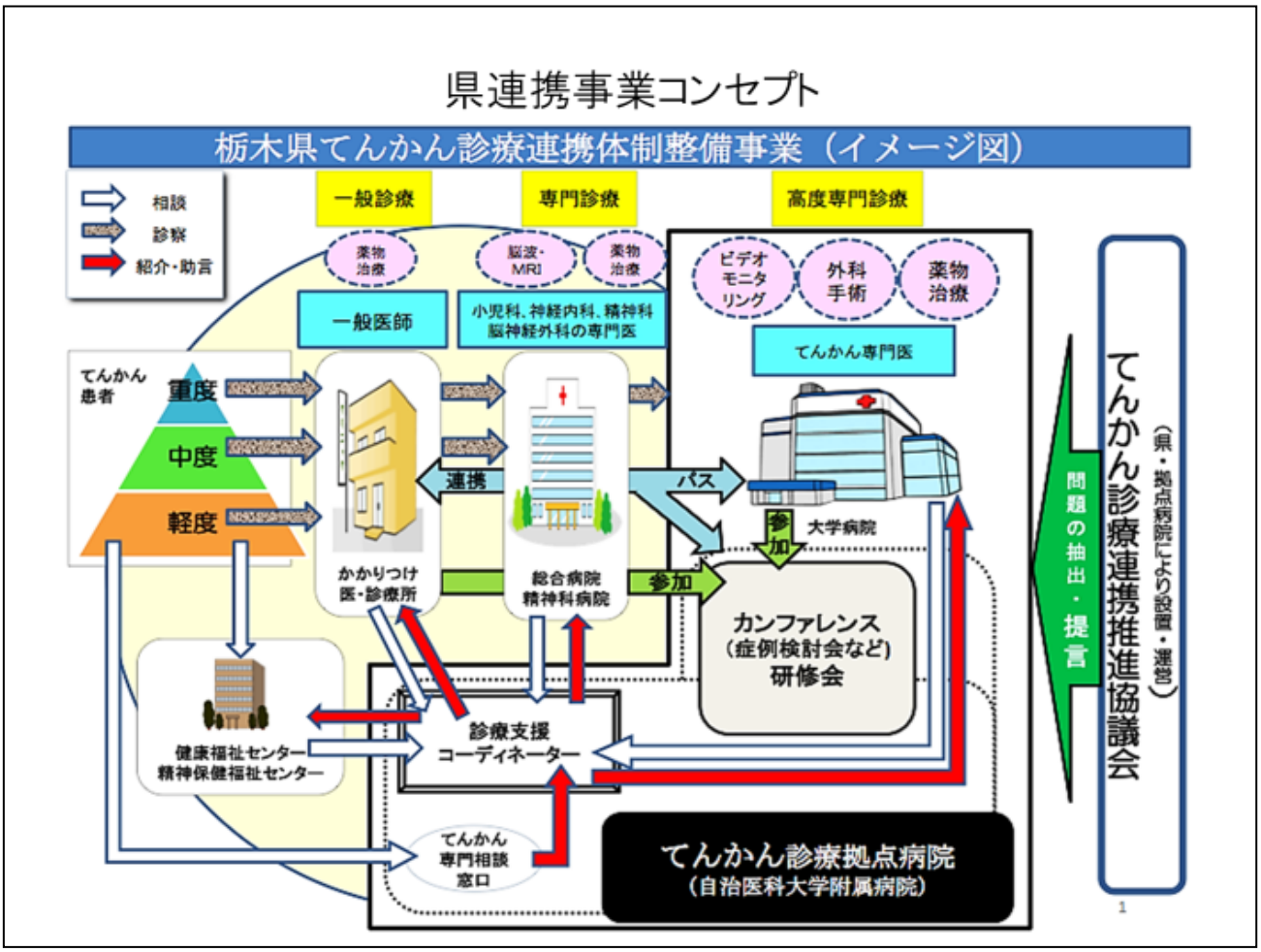
2009　脳外科を中心に「エピネット栃木」発足。
　　定期的学術講演会等の活動。

2011　連携施設登録開始。ちょうど鹿沼市の交通事故とも重なった。

2015　てんかん地域診療連携推進事業開始。
　　8 拠点に採択された（多診療科・職種間の連携体制）。

2016　自治医科大学てんかんセンター設立。
　　全国てんかんセンター協議会（JEPICA）加盟。

2）てんたん地域診療連携協議会



栃木県は図のようなコンセプトを描いており、てんかん診療拠点病院を中心に、多施設、行政、てんかん協会栃木支部で構成されている。

県連携事業　構成メンバー

自治医科大学病院	脳神経外科教授	川合謙介
自治医科大学病院	小児科教授	小坂　仁
自治医科大学病院	精神科教授	須田史朗
独協医科大学病院	神経内科教授	平田幸一
国際医療福祉 リハビリテーションセンター	センター長兼 なす療育園施設長	下泉秀夫
財）栃木県精神衛生協会	大平下病院長	藤沼仁至
社）栃木県医師会	星脳神経外科院長	星　道生
公社）日本てんかん協会 栃木県支部	事務局長	鈴木　勇二
栃木県保健福祉部	保健福祉部保健医療監	山本圭子
栃木県保健所長会	県西保険所長	塚田三夫
栃木県精神保健福祉センター	参事兼精神保健福祉センター所長	増茂尚志

３．拠点機関（自治医科大学）の活動

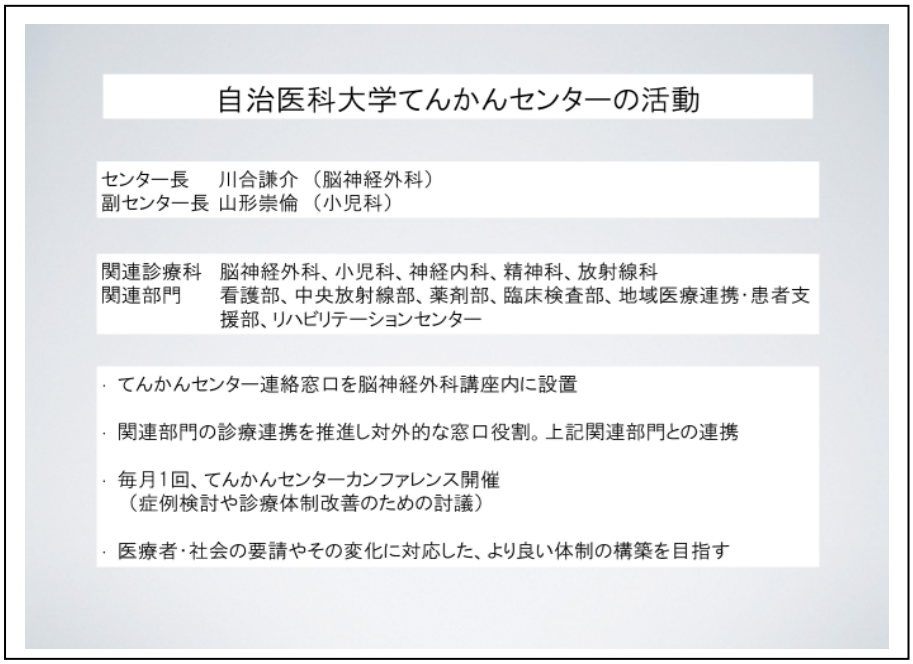
1）てんかんセンター

その構成は以下の通り、多数の部門が参加し、包括的なてんかんセンターを目指している。

2）てんかんの研修

4 月から月 1 回、自治医科大学てんかんセンターカンファランスを行い、問題点とその解決を図っている。

県内のてんかん研修のため、てんかんセンターカンファランスをオープンにしているが、栃木県は広く地理的に離れており、交通が整備されていないので、院外からの参加者は少ない。その改善を図るため、遠隔システムによるカンファレンスを計画している。

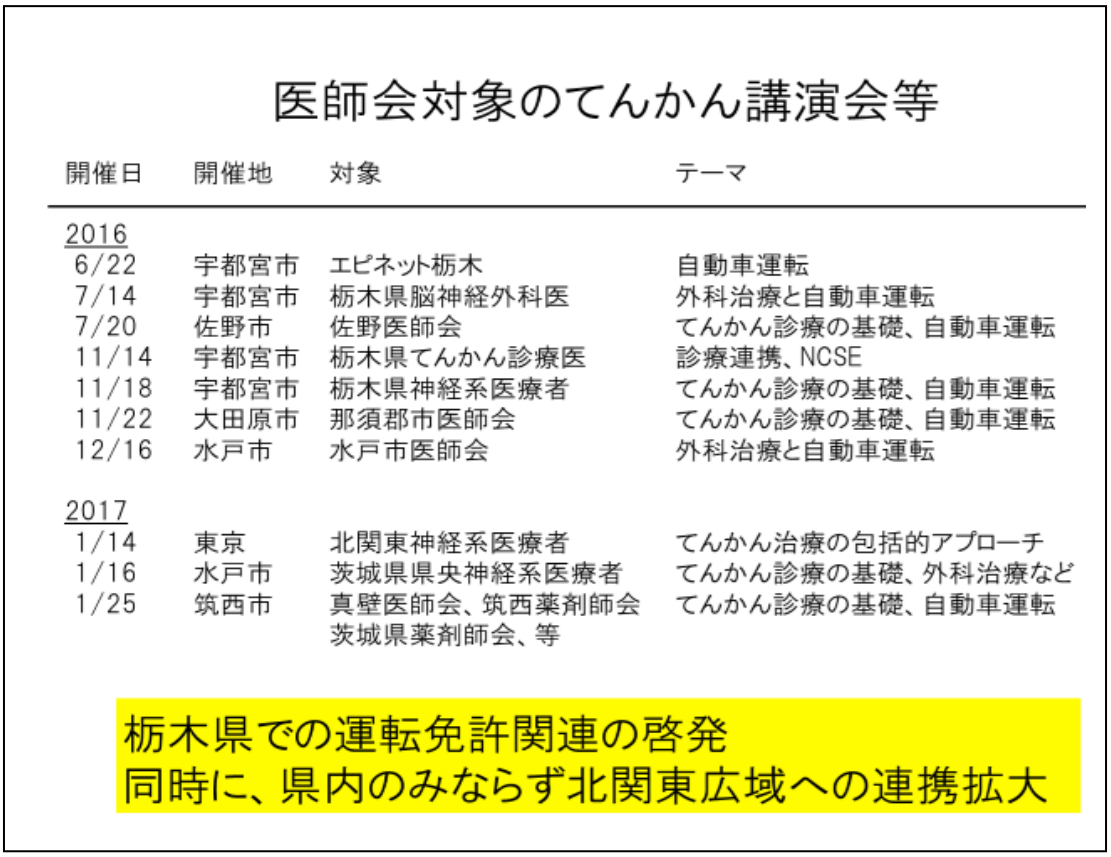


3）てんかん診療指標の推移

長時間ビデオ脳波検査の件数が増加しており、脳神経外科だけでも年間 10 数件から 2016 年には 50 件以上に増加したている。

4）てんかん普及・啓発

医師会対象のてんかん講演会は自動車運転に関するものが多いのが他の県と異なる特徴である。これは、栃木県では鹿沼市の交通事故のことがあって運転免許に関心が高いことと、てんかん診療連携協議会の代表がてんかん学会の法的問題検討委員長としてててんかんと運転免許の担当者であるためである。



医師会対象のてんかん講演会等

開催日	開催地	対象	テーマ
2016			
6/22	宇都宮市	エピネット栃木	自動車運転
7/14	宇都宮市	栃木県脳神経外科医	外科治療と自動車運転
7/20	佐野市	佐野医師会	てんかん診療の基礎、自動車運転
11/14	宇都宮市	栃木県てんかん診療医	診療連携、NCSE
11/18	宇都宮市	栃木県神経系医療者	てんかん診療の基礎、自動車運転
11/22	大田原市	那須郡市医師会	てんかん診療の基礎、自動車運転
12/16	水戸市	水戸市医師会	外科治療と自動車運転
2017			
1/14	東京	北関東神経系医療者	てんかん治療の包括的アプローチ
1/16	水戸市	茨城県県央神経系医療者	てんかん診療の基礎、外科治療など
1/25	筑西市	真壁医師会、筑西薬剤師会 茨城県薬剤師会、等	てんかん診療の基礎、自動車運転

栃木県での運転免許関連の啓発
同時に、県内のみならず北関東広域への連携拡大

学校・職場・社会で「てんかん」への理解を深めるシンポジウム

てんかんは脳の神経が一時的に過剰に活動して発作症状を繰り返す慢性の病気で、患者数は全国で92～158万人と推定※され、その70～80%は適切な治療で発作を抑えて普通の生活を営んでいます。このシンポジウムでは、「てんかん治療」の第一線で活躍する医師の話を聞き、適切な診断・治療と必要なケアについて学びます。

※大塚頌子、赤松直樹、加藤天美、久保田英幹、他：日本におけるてんかんの実態 日本のてんかん患者数の推定、てんかん研究27巻3号:408-411,2010

日時：2016年9月25日（日）
13：00～15：30（開場 12：30）
メイン会場：大崎ブライトコアホール
東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア3F（JR大崎駅 南改札口 徒歩5分）

◆プログラム

13:00～「開会ごあいさつ」
13:05～ 講演1 「てんかんとは ～診断から治療まで～」 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科 講師・医長 太組 一朗先生
13:25～ 講演2 「子どものてんかん ～学校生活で知っておくべきこと～」 自治医科大学 小児科学主任教授 山形 崇倫先生
13:45～ 講演3 「職域とてんかん ～知っておくべき対処法について～」 東海大学医学部 内科学系神経内科学 講師 山野 光彦先生
14:05～ 休憩
14:20～ 講演4 「自動車運転とてんかん」 自治医科大学 脳神経外科 教授 川合 謙介先生
14:40～ 講演5 「患者さんと家族の心のケア」 東京大学医学部付属病院 精神神経科 助教 谷口 豪先生
15:00～ てんかんQ&A（来場者様の事前質問に答えるコーナー） 太組 一朗先生、山形 崇倫先生、山野 光彦先生、川合 謙介先生、谷口 豪先生

太組先生　山形先生　山野先生　川合先生　谷口先生

共催：神経内科フォーラム、グラクソ・スミスクライン株式会社、エピネット栃木
後援：公益社団法人 日本てんかん協会、一般社団法人 日本家族計画協会
協力：一般社団法人 日本てんかん学会、一般社団法人 日本神経学会、一般社団法人 日本小児神経学会

主催：公益社団法人日本てんかん協会栃木県支部
共催：栃木県てんかん診療連携体制整備事業

第63回てんかん市民講座

11月13日（日）
13:00～16:00（開場 12:30）
とちぎ福祉プラザ　福祉研修室ＡＢ（３階）

てんかん診療の動向（講演）

個別相談（講演終了後）
川合　謙介 先生
（自治医科大学脳神経外科学教授）

てんかん治療は長期間を要するため、発作がありながらの生活をすることになります。また、どこで治療を受けたらよいか迷うことがあります。日常生活での留意点や将来の運転免許取得なども含めたてんかんの基礎知識を学びましょう。

栃木県ではてんかん地域診療体制整備モデル事業が進められています。これにより、てんかん専門医のいる拠点病院等と病院等の地域医療機関のネットワークが整備され、症状に応じて専門医療機関と地域医療機関の特色を活かした診療体制を進める計画です。

専門医療機関を有効に利用しながら地域医療機関に通院することで、安心して日常生活が送ることができるようになります。

参加費　５００円（会員は無料）
申し込み　【講演会】参加事前申し込みは不要です。（直接会場へ）
【個別相談】事前申し込みが必要です。（申込書は裏面）
ファックスまたはメールを事務局まで送ってください。
託　児　今回はありません。
連絡先　（公社）日本てんかん協会（別名／波の会）栃木県支部
TEL&FAX　０２８－６２７－９００６
http://jeat.la.coocan.jp/

市民講座を行うだけでなく、その時には個別相談も行っている。

5）事業成果の指標

栃木県の特徴として「自動車運転関連事項」を栃木県警察本部と連携して行っており、以下の項目を検討している。

項目　平成22年度から平成30年度の各年度（区切りは年単位でも可）

1. てんかんを持つ人による交通事故件数（死亡事故、障害事故　別）
2. てんかん発作による交通事故件数（死亡事故、障害事故　別）
3. 自動車運転死傷処罰法の適用件数（てんかんとして）
4. 免許取得・更新時の申告件数（過去5年の発作）
5. 4のうち免許交付件数と免許拒否件数
6. 診断書提出件数（てんかん）
7. 医師による通報件数
8. 虚偽申告の処罰件数
9. てんかんによる免許取消件数と自己返納件数
10. 取消後の試験免除再取得件数

４．栃木県における課題

1. てんかん専門医数が限られている状況でどうのように効率的な診療連携体制を構築するか
2. 宇都宮市や県南地区以外のてんかん診療過疎地区に対する連携体制と啓発活動をどのように行うか
3. てんかんと関連する自動車事故を減らすためにどのような連携体制を構築すべきか